

第33期（令和5年）入学式式辞

24節気の啓蟄を迎えるとウグイスの鳴き声を聞き始めます。今年はそこから暖かい日が続き、桜の花の開花も早く、新型コロナウイルスの感染状況も下火になったことも相まって気持ちの高まりを覚えます。そんな中で福山市北部市民大学の第33期の入学式が盛大に挙行されることを大変うれしく思います。

北部市民大学の講堂に場所を移してこじんまりとした式として実施いたしますが、会場には、来賓として北部支所長 清水直樹様、福山市市議会議員 小川眞和様、生田政代様、北部地域振興課長 小林ひろのり様にお越しいただいて華やかに開催できることを心から感謝申し上げます。

本日の入学式にはこの市民大学が初めての学生のみなさんに出席して頂いています。皆さんには、市民大学の成り立ちや運営、生涯学習施設としての役割なども含めきちんと説明しながらも、心温まる式典にしたいと思います。

先ず、当市民大学のなりたちです。3年前に創立30周年を迎えました。当時生涯学習の機運が高まっており、福山市北部地域の住民の皆さんから「身近で気軽に学べる生涯学習の場を増やしてほしい」という熱い要望がだされました。そこで、町内会連合会長 老人クラブ連合会長 公民館長さんなどで当大学の運営委員会が組織され開校の運びとなりました。

直接運営の内容や方向性を決める運営委員会は、駅家町内の交流館長と事務局職員で構成されています。

めったにないチャンスですから、ここで皆さんに紹介させていただきます。最初に 駅家交流館 谷口館長です。

宜山交流館 世良館長

服部交流館 佐藤館長

駅家東交流館 中井館長

駅家西交流館 山田館長

続いて事務局職員です。日々直接皆さんのお世話をさせていただいている者です。

最初に 井上副学長です。藤本事務局長です。

橋本事務局員です。鶏内事務局員です。

そして私は学長の吉川信政です。運営委員会の決定を受けて、事実上の運営は事務局で行います。どうかよろしくお願いします。

まず、市民大学の成り立ちです。

市民大学が開設された30年前の開学当時は、教室は十分にはないし、コピー機も借り物で都合よく使えません、駐車場は狭くてみんなの車が置けないなど、ないない尽くしてました。講師の先生方は本当に手弁当で教えてくださっています。

した。学生会からの中元と歳暮をお贈りする程度で教えていただくという、まるでボランティアでした。今でもその伝統は生きていて、先生方にはわずかな講師料で指導に当たっていただいています。開学して数年後に福山市北部市民センターが完成したことで、この建物の活用が私どもに特別に許可されたのです。駐車場が狭いとお叱りを受けることがありますが、私が三年前に勤めていた老人大学の混み具合に比べると随分余裕があります。これ以上増やすことは無理ですから、大学が決めたルールを守り、駐車場の当番の指示に従ってください。

建物の設備もよくなっています。およそ一億五千万円をかけてエレベーターの設置をしていただき、皆さんが使用できるようになりました。脚や腰が痛い人、三階まで重い学習道具を持ちあがっている人には大変ありがたい設備となりました。

いわば、住民の熱意、講師の先生方の厚意、行政の後押し、そして地元選出の市議会議員の先生方の力があつたからこそ今の北部市民大学ができたのです。

次に新型コロナウイルス対策です。昨年度は第7波第8波の大きな流行がありました。授業は長期の休講をすることなく続けることが出来ました。市民大学としては依然として困難な状況の中ではありますが、各教室に加湿つきの空気清浄器を設置し検温器を備えました。毎朝職員によって階段の手すりなども消毒をしてまいりました。しかし、市民大学で感染がはやらずに済んだのは学生の皆さんの意識が高かったのが一番の理由です。最初の頃は、感染が進んでいる東京へ行ったり、調子が悪かったりしたら授業を休んで安心して学習ができる環境づくりに協力していただきました。さらに歌を歌う科目はマスクをつけた状態で歌うこと、毎回体温を計ることを申し合わせたクラスもありました。自立した皆さんは、自らの安全は自分たちで守るといった気概が見受けられて、大人の学ぶ場の力強さを感じました。

本日はマスクの着用をお願いしました。講堂では最大70人程度で授業をしますが本日は140人ぐらいになるためをお願いしたものです。授業では、歌うなど声を出す科目や吹き矢のクラスはマスクの着用を推奨します。これからも「手洗いの励行 換気の実施」を心がけ家庭にも市民大学にもウイルスを持ち込まないように心がけましょう。

さて、学長として考える、生涯学習施設としての市民大学の意義です。長年の懸案だったエレベーターを設置していただけたことは、当市民大学のこれまでの取り組みを評価していただいたということとともに、これからも福山市北部の生涯学習施設として地域から必要とされる市民大学であり続けな

ればならない責任も生じているといえます。

さて、「人生百年時代」と言われています。全国ではおよそ九万人ちかくの百歳以上の方がいらっしゃいます。九〇歳以上は二六〇万人にものぼり全体に占める割合は 2.1%だそうです。駅家町の人口はおよそ3万人ですから九〇歳以上の方は六〇〇人以上おられることとなります。しかしわたしどもの市民大学では九〇歳以上の学生は一人だけです。健康で足腰に自信がある人しか勉強するために通うことはできないのでしょうか。言い方を変えてみます。六五歳の女性が九〇歳まで生きる確率はおよそ二分の一だそうです。北部市民大学で学ぶ学生のうち六〇歳から六九歳までの女性は二〇〇人ですから、およそ一〇〇人は九〇歳まで長生きをされる計算です。このことを前提にお話しさせていただきます。

北部市民大学には、三年前に千人おられた学生が今年度は9百人です。学生数が減ると同時に平均年齢が上がっています。同じ人が続けて受講すると同時に高齢になった人が辞めていかれます。しかし新しい人がなかなか入ってこないのです。これから七〇歳まで再雇用などで仕事を続ける人が増えると考えられます。積極的に働くという元気な人が増えてきているように感じています。

しかし、気になることがあります。七〇歳でフリーになって何か勉強を始めようと思ってもついつい腰が重くなってしまわないのでしょうか。元気で自動車を運転して旅行などを楽しんでいる間はいいでしょう。しかし、趣味を増やすことなく近所に親しい同好の士を得ることなく年齢を重ねてしまうと、七五歳から九〇歳ぐらいの間はどうなるのでしょうか。考えてみてください。寂しい老後を送らなくてはならなくなってしまいます。市民大学で学ぶことで生涯の趣味や特技を持つことは年齢相応の活動を助けてくれます。感性を磨き想像力を働かせ指先を動かすことだけでなく、人と交わり親しく話をするのは認知症予防になり、元気に生活する糧になります。

さらに社会的にも、重要な意味をもっていると考えています。イキイキと活動的に暮らしていけるのは個人的な問題と同じぐらいの社会的な意味合いもあります。国や自治体の財政が厳しい状況のなか、元気で過ごすことが医療費の削減につながり、私たちの子や孫の代につけを残さないこととなります。そして、高齢者の元気は子供たちが多様な価値観にふれ健全な育成にもいい影響を与えるものと考えています。

そう考えると生涯学習の拠点である私どものような市民大学の持つ役割がとても大きいものになるに違いありません。

事務局の職員は楽しく学ぶことができる場を提供し、学生の皆さんは多くの友人や知り合いなどを誘っていただくことが重要です。再度話すようですが、学ぼうとする意欲は心の元気につながるでしょう。自分の好きなことや興味や関

心を持つことにチャレンジすることは心の健康につながるに違いありません。そして同じ趣味を持った仲間を増やして日常生活を豊かにし感動ある生活を見つけていただきたいと思います。多くの感動や豊かなコミュニケーションはきっと人生に潤いを与えてくれます。このことがご自身の健康と地域の元気につながるに違いありません。

「楽しい学び つながる喜び 伝える感謝」のスローガンのもと
学生の皆さんと一緒に大学づくりをしましょう。北部市民大学の活性化
と皆さんの健康と発展を祈って式辞とします。

本日は 入学 誠におめでとうございます。

2023年（令和5年）4月1日

福山市北部市民大学

学長 吉川信政